

## 文部科学大臣メッセージ

日本教職員組合第106回定期大会の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

文部科学省では本年3月、10年ぶりに学習指導要領を改訂しました。現行の学習指導要領の考え方を引き継ぎ、子供の知識の理解の質を高め、急速に変化し、予測不可能な未来社会において自立的に生き、社会の形成に参画する力を育てることを目指しています。

このような教育には、学校の指導・運営体制等の充実は不可欠であり、同じく本年3月に義務標準法等の改正を行い、16年ぶりの計画的な定数改善を進めるなど、環境整備を図っているところです。

一方、先般公表しました教員の勤務実態調査の速報値によって、改めて教員の長時間勤務について、看過できない深刻な状況であることが明らかになり、文部科学省では6月22日、学校における働き方改革に関する総合的な方策について中央教育審議会に諮問を行いました。

教員の長時間勤務の要因を見直すことで、更なる効果的な教育活動へとつなげていくことができるとともに、自らの意欲と能力を最大限に発揮できるような勤務環境を整備することで、教員は“魅力ある仕事”であることが再認識され、教員自身も誇りを持って働くことができるようになり、それがひいては子供の教育にも良い影響として還元されるものと考えます。

「教育」は未来への「先行投資」そのものであり、学校教育に対する国民の関心・期待は益々高まっています。我が国の将来を担う子供たちが、自他のかけがえのない価値を認識しながら、協働し、様々な分野に積極的に挑戦し、自らの可能性を高めていけるようにすることこそ、専門職としての教員の最大の使命です。

日本教職員組合の皆様におかれても、自らの職責の重要性をこれまで以上に自覚され、日々御努力いただくことを期待し、私のメッセージいたします。

平成29年7月15日

文部科学大臣 松野 博一